



10月の園だより

令和7年 9月26日

杉並区立成田西子供園

園長 齋藤 由美

『体を動かすことを楽しむために』

副園長 小森 三奈子

夏が終わり体を動かして遊ぶのにちょうどよい気候となってきたことで、子供園の園庭やホールなどでは、毎日子どもたちが元気いっぱい体を動かして遊ぶことを楽しんでいます。

先月の園だよりでもお知らせしたとおり、子供園では10月に「不思議の森」をテーマに、運動会を行います。幼児が主体的に体を動かすことを楽しむことができるように先生たちは活動や環境を工夫しています。

始業式に、子供園に不思議な卵が現れました。大事そうに卵を抱えている園長先生の姿に興味津々で見ていた子どもたち。しばらくすると、園内の壁面に卵が現れます。そして、数日後、その卵にひびが入り、やがて卵が割れると、今度は園内のあちこちに恐竜が隠れていて、それを見つけるたびに、子どもたちは嬉しそうに教えてくれました。少しずつ、園内が不思議の森の雰囲気になり、様々な動きが経験できるような環境をつくっていています。

年少組は、ガオガオザウルスの踊りを学級で楽しんでいたもので、恐竜の帽子をつくることのできるような材料を用意しておく、興味をもった幼児から、自分で好きな色を選んでつくりました。できあがるとすぐに被り、恐竜になりきって動くことで、より一層手足を大きく動かす姿やリズムに合わせて踊る姿が見られました。また、ガオガオパーク（サーキット）では、草のトンネルや、岩のジャンプ台、一本橋などを用意しておく、興味をもった場で繰り返し遊んでいます。何度も経験する中で、這う、跳ぶ、バランスをとって渡るなど、動きがよくなってきています。このように、興味をもったものに満足できるまで繰り返し取り組める環境というのは、幼児期にとってとても大切なことです。

年中組は、不思議の森の虫になって表現や運動遊びを楽しみます。親子競技でも行う玉入れは、「ハチミツを集めよう」というイメージのもとに、力を調整してねらって投げるという遊びを楽しんできたことで、目と手の協調動作や、投げる力と距離感・方向感覚、バランス感覚などが育っています。ハチミツポット（カゴ）の中が見えるようにしたことで、「たくさん入れたい!」という思いをもち、張り切って取り組んでいます。

年長組は、かけっこのように、個々の力を発揮するものだけでなく、つなとりやリレーなど、チームの仲間と力を合わせる競技もあります。つなとりの綱には不思議の森のキノコや葉っぱがついていて、どれを取ろうかチームの仲間と相談して決めて狙いに行きます。勝った嬉しさや負けた悔しさを感じながら、競い合うことを繰り返し楽しむ中で、どのような動きや体の使い方がよいか実際に動く中で体感し、力いっぱい引いたり目標に向かって全力で走ったりする姿は、さすが年長組です。

また、全学年で一緒に踊る体操「ハッピーソング」や各学年の踊りは、曲がかかると思わず体が動いてしまうほど、子どもたちは気に入っていて、腕や足をしっかり曲げたり伸ばしたりするなど、曲に合わせて全身を大きく動かして踊ることを楽しんでいます。

10月4日の運動会では、不思議の森のイメージの中で、一人ひとりが体を動かすことを楽しんでいる様子や様々な動きを経験している様子を見て子どもたちの育ちを保護者の皆様に感じていただけたら幸いです。あたたかい応援をよろしくお願いいたします。

☆子どもたちの様子と今月のねらい・おすすめ絵本☆

3歳児らっこ組

♡子どもたちの様子♡

2学期が始まり、園内のたまご探しや恐竜探しの探検に出かけたり、ちびっこ恐竜に変身して音楽に合わせて踊ったりして遊ぶことを楽しむ姿が見られます。また、保育者や他児と同じ卵を持ったり、同じ恐竜の動きをしたりするうれしさを感じるようになってきています。

今月もいろいろなものを作ったり、なりたいものに変身して遊んだりし、一人ひとりの「こんなことをやってみたい!」という思いを実現できるようにしていきます。

暑さが落ち着いてきたら、散歩にも出かけ、自然に触れたり、広場で思い切り体を動かしたりする経験も重ねられるようにします。

★今月のねらい★

○保育者や他の幼児がしていることに興味をもち、まねたり自分から関わろうとしたりする。

○保育者や周囲の幼児と一緒に走ったり、音楽に合わせて踊ったりして体を動かすことを楽しむ。

○生活の流れの中で、自分でできることはやろうとする。

◆おすすめ絵本◆

『どんぐりとんぼろりん』 武鹿 悦子／作 柿本幸造／絵 ひさかたチャイルド

『さつまのおいも』 中川ひろたか／文 村上 康成／絵 童心社

4歳児ぺんぎん組

♡子どもたちの様子♡

新学期が始まり、夏に経験したことを自分の遊びの中で再現してみようとしたり、なりきって遊んだりする姿がよく見られるようになりました。作ることも楽しくなってきており、保育室の中にある不思議の森に住む昆虫やその昆虫が遊ぶ場所等を作ったり、ハンバーガーなどの食べ物を作ってみたりするようになりました。必要なものを考え、作ってみることが面白くなってきているぺんぎん組です。

運動会に向けては、ぺんぎん組のみんなが親しみをもっている虫になりきり、走ったり、踊ったり体をたくさん動かすことを楽しんでいます。作った衣装を着て踊るだけでなく、虫のお家を作ったり、虫の仲間とごっこ遊びをしたりして、遊びの中でも活動の中でも虫になりきることを楽しんでいます。子どもたちが思わずやってみたい!と自分から取り組もうとする姿を支え、虫になりきる中で多様に体を動かして遊ぶ心地よさを味わえるようにしていきます。

★今月のねらい★

○いろいろな遊びや秋の自然に興味をもち、自分から関わってみようとする。

○友達や保育者と一緒に体を動かしたり、自分なりに表現をしたりして楽しむ。

○食事のマナーを知り、保育者や友達と一緒に食べることを楽しむ。

◆おすすめ絵本◆

『どうぞのいす』 美山美子／作 柿本幸造／絵 ひさかたチャイルド

『えんそくバス』 中川ひろたか／作 村上 康成／絵 童心社

5歳児いるか組

♡子どもたちの様子♡

始業式でカラフルなたまごに出会い、不思議の森のイメージで遊んだり、体を動かしたりすることを楽しみ始めました。不思議の森の木や花、生き物などを作ることも楽しみ、保育室も不思議の森の世界のようになってきました。運動会に向けた取り組みでは、恐竜やカラフルな鳥になりきって動くことを楽しんでいます。取り組みの中では、「こんな踊りを考えたよ」「次こそ勝つためにはどうしたらいいかな?」と友達と考えや力を出し合いながら、振付や作戦を考えています。体を思い切り動かすことの心地よさや充実感、友達と力を合わせて取り組む嬉しさを感じているようです。

月末にはバス遠足を計画しています。学級の友達との共通体験が、友達との遊びの中で再現され、イメージを伝え合って遊ぶ楽しさにつながるようにしていきます。

★今月のねらい★

○友達と思いを伝え合いながら、工夫して一緒に遊びを進める楽しさを味わう。

○自分のめあてに向かって力を出すことの心地よさを感じ、十分に体を動かして遊ぶ。

○一日の園生活の流れに見通しをもち、友達と声を掛け合って行動する。

◆おすすめ絵本◆

『へんてこもりのはなし(シリーズ)』 たかどのほうこ／作・絵 偕成社

『どうぶつえんガイド』 あべ弘土／作・絵 福音館書店